

常高新聞

定 部金貳錢 一頁五字十二行 一休日曜大衆 一紙五字十行 一休日曜大衆 一紙五字十行 一休日曜大衆

五月二十一日

五月人形

外のほり

- 大布鯉
- 座敷のほり
- 武者人形

平町四丁目 (電話七二二番)

スガノヤ提灯店

平町四丁目

フクタヤふとん店

五月人形大出賣

御座敷のほり各種
武者人形尚武太刀
布紙製鯉外飾物一式

正札附大特價に差上可申候間何卒御用命仰付被下度願上候

平町四丁目角(電話百五十七番)

各料商種 菅野屋商店

平町二丁目

洋傘商 陳野洋品店

見易く買易し (定價付)

平町三丁目

四季除物 提灯商 叶加藤商店

五月人形座敷のほり

外小道具一式

銘茶、糸類
玩具 いづみや

平町二丁目 (電話六四九番)

清々しい
夏の新装を飾る

單帯
紹小紋
紹帯皮……等

逸品多数荷揃いたしました

中野 吳服店

電話六七番

名所は新舞子
ハーマニカ
森下……

森下商店

平町一丁目

商号まめや

買賣ト金ト融

株 式

御相談下イ

要松木商店

平町白銀町六
電話六五四番

種々諸國内藥局
電話百〇〇番

父園次郎儀十九日午前〇時十分死去仕候條乍略儀御通知に代へ此段謹告仕候

遺骸葬儀は五月二十四日午後二時自宅出棺長橋明性源寺に於て佛式により相營申可候

昭和二年五月二十二日

男

小野野野野
小坂野野野
永山坂野野野
小野野野野
松崎野野野
長太郎

和銀善七
野大七
坂久七
山吉七
野野野
野野野
野野野

親戚總代 松崎太郎

近日來る

猫 穴

御子様には御菓子は何よりです
美味、滋養の洋生菓子をお召し下さい

トーナッツ 三ツ 十錢
シュークリーム 一ツ 五錢
シュークリーム 一ツ 五錢
シュークリーム 一ツ 五錢
シュークリーム 一ツ 五錢

平町四丁目
ヤトモツマ

電話二四番

生徒募集

和洋結髪 平町四間町
美顔術 水野化粧院
衣裳着付 電話五二五番

常警論壇
新時代思潮の傾向(五)
三 布川静淵

西歐の國民主義時代は於ては、汎スラブイズム、汎セルマニズム等を以て民族單位の聯合を劃策されたるが世界戦後、歐洲の衰頹するや、聯合は大陸主義となり汎歐羅巴、汎亞米利加に對し、汎亞細亞を叫ばるゝに至つた。未だ何れも眞個の實勢力を爲すに至らず、或は空聲に止まるなきを保し難きも、時代思潮の一とし算すべきものである。斯種の聯盟の成立には利害關係の共通を第一とし、その共同生存を脅威する相手方も、亦相當に聯盟する時期たるを要する。換言すれば汎歐羅巴の鞏固には、汎亞細亞の鞏固を要する。單に一方のみ發達するものでない。小國簇生して封建割據に類似し來れる歐洲諸國が大團圓結を完成する曉は、亞細亞諸民族が同じく大團圓結する氣運に達せる後であらねばならぬ。汎亞細亞も亦之と同じく、汎歐羅巴の鞏固なる氣運を見たる後なるべく、而かも此の如き氣運は今日未だ何れにも存在しない。現に存するは白人種側の世界戦後に於て衰

頽せる事實と有色人種側の覺醒せる事實なるが未だ各之を共同せしむる如き氣運に到達せぬ民族勝敗の前途は容易に速断を許さぬ、茲に於てモリス・ムレ結言して云く「生命は常に永續する、かゝるが故に或世界の終りは全世界の終りではない」と、蓋し至言である。

四 國家至上主義、政府萬能主義の政治制度偏重時代は、西歐諸國に於て既に過去に屬する形勢にあるは否み難い、

(つゞく)



小名濱商港計畫の 調査資料提出を延期

本省から督促して来たが
知事更迭つきのドサクサから

昨報小名濱商港計畫につき
内務省土木局第二技術課に
於て金子末松兩技師により
港灣調査會に提案前の調査
をなして居る事は屢報の如
くであるが十九日には金子
技師から更に調査資料とし
て縣下郡市各區別主要物産
數量調及び海岸地方各町村
處あつた

人肉の市に賣られた 純眞な娘の涙物語り

平町料理店主の誘拐露顯
四百圓で倫落の淵へ

平町料理店佐々木熊藏は大
正十四年十一月頃山形縣北
村山郡龜井田村大字次年子
井上龜吉長女ツネ(九)が父
に連れられて山形市周旋業
菅原マツ方へ就職口を頼ん
でゐるを幸ひ自分方の酌婦
として住込られ、ば酌料と
して客一人に付手錢飲食料
の利益金十分の六を分配す
べく只酌さへすればよく體
に苦痛は聊かないからと巧
に欺き本人を納得させ四百
圓を貸與へて抱ひ入れたが
ツネは口約に反するからと
主人の命に従はぬのみか國
へ歸してくれと日夜泣いて
ばかりゐるので又もや同人
を欺き十五年一月中豊浦町
料理店喜樂に前借四百四十
圓四十五錢で住替させたの
を平署に探知され誘拐罪と

鑛毒と判明

赤井村稻苗枯死問題

石城郡赤井村大字高萩地内
の苗が枯死した苗代が多い
ので郡駐在野村技師が出張
調査をなした事は既報の如
くだが、枯死の原因は此の
苗代は前年まで水苗代とし
て仕立てたが早魃に逢ひ、
其上福島炭礦から出る排水
を灌漑した爲め鑛毒の被害
を受けたので陸苗代として
あまり灌漑水をこなかつた
結果枯死したので、被害苗
代は五反歩程で同村の水田
四町五反歩程は田植が苗不
足で出来ない事になる、鑛

毒に惱まされた同村民が鑛
毒を豫防する意味で陸苗代
をしたところ過去數年間に
亘り土壤に含んでゐた鹽分
が土表に現れて枯死する結
果を見た爲野村技師は直に
應急策として灌漑をする様
注意をなした

相馬双葉の協力して 出張所設置の猛運動

平に決定した縣產業
組合聯合會出張所

本縣產業組合支會では若松
市に總會を開いた際石城に
聯合會の出張所を設けると
いふ決議をしたが實際にお
いては双葉、相馬の方に産
業組合が多くその貯金も貸
出しも石城より多く従つて
平町の出張所と取引するの
では不便であるから相馬、
双葉にこれを設置されたし
と兩郡產業組合支會長より
左の如き陳情書を知事に提
出した

陳情書

今般若松市に開催したる
本縣信用組合聯合會臨時
總會に於て決定せられた
る出張所設置の件會津及
び濱通り方面の二個所に
設置の事に御決議相成候
處仄聞するに濱通りは石
城郡平町に設置せらるる
やに聞き及び果して然
りとせば相馬双葉兩郡内



家庭欄

くせ毛を治す法

日本髪を結びましてもハイ
カラ等結びましても悪い
くせのある毛は思ふやうに
その形がとれません、ちぢ
れ毛やくせ毛の多くは先天
性のものであるが、中には
榮養神經の障害から起るも
のや、一種の黴菌が毛根に
附着した爲めに起るのもの
あります。ちぢれ毛の一特性
のものであつたら、風呂に
入つた時毛をのばした上で
手拭でしばり蒸しながら直
すのがよらしいのですなほ

常吉(七)は去る十七日午後
五時頃同坑に入坑作業中俄
然崩壊し來つた落盤の下敷
となり重傷を負へ附屬病院
に入院加療中であるが生命
危篤である

官行製炭所 廢棄の陳情

濱三郡木炭業組合から

石城、双葉、相馬の濱三郡
内には四ヶ所の官行製炭事
業が行はれて居り民間の木
炭生産業者は官行事業に壓
迫されてゐるが、一昨年平
營林署で更に田人村に官行
所を設置する計畫を發表し
たので、濱三郡の木炭業者
は擧つて之に反對したため
募集
文藝其他投稿
を募集します

今日まで實現せず居たが
今回營林署で官行所設置の
計畫を進めてゐるの事を
聞いた民間業者は大いに
驚き此上壓迫されては經營
難に陥るからと十九日午前
中代表者が平町の濱三郡木
炭同業組合事務所に集合し
て協議の上同日委員が平營
林署に出頭して官行製炭事
業計畫の廢棄方を陳情した

昔から用ひられた美男かつ
らもよろしいですが、最も
効のあるのは甘草の刻んだ
もの五匁に水四合を入れて
二合に煎じつめ、それを布
でこして熱いうちに普通の
くせ直しのやうにして用ふ
るとよろしく始終この湯を
くせ直しにしてゐるうちに
何時の間にか直るものです

弓は袋に刀はサ 更生歡喜の湯本温泉

不氣味な空氣が一掃され
町民はじめて愁眉を開く

入山の炭礦爭議は去月十二
日組合側が會社に向つて戦
端を切つて以來茲に四十有
餘日、その間或は古名將の
故智に倣ひ葉屑や糠の類な
ごを詰めた假裝米などに氣
勢をあげ悪戦苦闘大に力め
た効もなく端なくも去る十
五日夜の暴動から一舉九十
七名の檢舉を見而も其内の
五十一名は既に相前後して
公務執行妨害或は暴力行為
など恐るべき罪名の下に起

訴收容さるゝに至り茲に已
むなく惨敗の宣言書を發表
すると同時に一時その結束
を解体するの結果となつて
例令當初から今日あるを豫
見せる向きが少なくなつた
にせよ其の高調時に在つて
は白晝の街上兩三回に亘つ
て血の雨をさへ降らした入
山の爭議は組合側の末路甚
だ振るはず茲に殆ど全く終
熄の姿となり久しい間一種
底氣味悪き暗雲の低迷した

地元の湯本町には初夏の日
光新緑にかざやかしく人も
自然も甦生の喜びに満ち殊
に會社では二十日第五坑一
番方の入坑者が前日のそれ
に比し一舉七十名を増加し
て二百七十九名第四坑も亦
前日から三十名を増して百
五十六名の入坑業者を見
るに至つた様な具合で過去
四十日間に於て多大の犠牲
を拂つたにせよ會社の昨今
に於ける勝戦さの得意想ふ
べしである

幹部連失ッウ

坑夫組合石城支部小野田班
の執行委員田村吉之助外三
名の執行委員は入山炭礦争

議が惨敗に歸し到底組合勢
力を昔日にもどすことは出
來ないと觀念してか十九日
夜いづれも小野田礦を下山
いづれかに姿を消したがそ
れがため同炭礦組合の脱退
者は續々現れ数日中には組
合員の姿を消すものと觀ら
れてゐる

取締警官 實に六千人

入山炭礦爭議エピソード
湯本町入山炭礦の約一ヶ月
餘に亘つたさしもの大爭議
も十九日爭議團の解散惨敗
によつて解決を見るに至つ
たが爭議勃發以來湯本町字
裏町木村順平方に置いた警

十圓紙幣で つり銭詐欺

東京府下尾久町居住石城郡
渡邊村生れ大内義正(三三)は
十八日夜石城郡湯本町の飲
食店相馬屋方で八圓分の飲
酒をなすに十圓札と稱して
昔の十圓紙幣を出して酌
婦の無智なるを奇貨として
釣銭十二圓を詐欺横領した
事が後に至つて判明したが
十九日夜平町南町の飲食店
を擧動不審と見られ平署に
引致取調べを受けたので遂
に右の犯行を自白した